

水痘

水痘(水ぼうそう)は、水痘・帯状疱疹ウイルスに初めて感染した時に発症する急性のウイルス感染です。

感染力は麻疹(はしか)より弱く、風疹、おたふく風邪よりは強いです。

水痘(水ぼうそう)に対する免疫がなければ感染後2週間程度の潜伏期間を経て発疹が出現します。

感染経路

感染力は極めて強く、空気感染、飛沫感染、接触感染によって上気道から侵入します

症状

38度前後の発熱と全身性の発疹で痒みを伴います(熱が出ない場合もあれば、高熱が続く場合もあります。)発疹は体から手足へ広がり紅斑⇒丘疹⇒水疱(水ぶくれ)⇒痂皮(かさぶた)へと変化していきます。

合併症

健常な子どもが水痘(水ぼうそう)を発症した場合、その殆どは数日間で良くなっていきますが、まれに脳炎、肺炎、皮膚の重い細菌感染症などを起こすことがあります。合併症の危険性は年齢により異なり、1歳以下と15歳以上では高くなります。

予防

水痘(水ぼうそう)を予防するには、水痘ワクチンの2回接種です。感染を予防し、重症化や合併症のリスクを下げることができます。

予防接種をしていない方が水痘(水ぼうそう)に感染している人と接触した場合、接触後72時間以内であればワクチンにて発症の阻止、あるいは症状の軽減が期待できる。



文部科学省
「学校において、予防すべき感染症の解説」より参照